

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101693		
法人名	(有)ありずう		
事業所名	グループホーム なの花	ユニット名	れんげ(1階)
所在地	静岡県浜松市中区早出1200-25		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=2277101693-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の掃除を徹底しており、定期的に布団干しも行ない気持ちよく過ごせるように心がけている。
夏祭りや敬老会には御家族に参加していただき、毎年趣向を変えて楽しんでいただいている。
食事は毎日手作りのものを提供している。入居者の嗜好にあったものを調理し、品数も豊富。ホーム内にはいちじくの木や柏の木があり、5月には柏餅づくりに利用している。畑には毎年さつまいもを植えて、秋には収穫し入居者と調理し食べている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や家族等関係者の思いを聞き取るために、イベント等の折に家族会を併せて開催し、話し合いの機会を増やす工夫をしている。職員の異動による利用者や家族への不安・不便をできるだけ軽減できるよう、事業所だよりにより職員の異動状況を掲載する配慮をし、職員に対して親しみを感じてもらえるように努めている。事業所では職員の資質向上にむけ社内勉強会を毎月実施している。管理者と職員は相互に信頼を寄せており、意識を共有して支援に取り組んでいる。人材の確保や育成に困難が伴う社会情勢の中で、管理者は経営者との連携を一層強め、利用者の最善の利益に適う支援の実現に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた施設方針を掲げて職員間で共有実践している。理念については勉強会などでも職員間で再確認している。	事業内容等を案内する手作りのパンフレットに、理念を基に職員が支援する上で大切にしている五つのキーワードを、やさしい言葉で紹介している。全職員は意識を共有して、提供するサービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加は継続。地域の防災訓練などには参加しているが日常的な交流はあまりない。	自治会に加入しており、「施設だより」等で地域に向け情報発信をしている。地域の行事やサロン活動への参加、防災訓練等で交流が図られている。納涼祭等の事業所の行事に、近隣住民も訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時、受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	担当職員以外も参加し色々なテーマを掲げて行うことで、より現場の意見を取り入れた会議にしている。	多数の関係者により2ヶ月ごと開催している。できるだけ多くの職員の出席を促し、状況に即したテーマを挙げて現場における課題等を引き出している。外部の関係者にも現状を把握しやすい工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1回介護相談員が来所されている。	管理者は居宅介護支援事業所のケアマネジャーに同行し、市の窓口に出向く機会を増やしており、行政担当者に相談や助言を受けられるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。身体拘束のないケアに務めているが、危険回避の為、御家族に了解を得てベット柵のかわりに車椅子を置いている。	例え僅かであっても利用者には不自由を強いる場合には、家族の了承を得ることを定めている。身体拘束をしないケアが実践されているが、職員研修の取り組みの強化と、マニュアルの整備に課題が残っている。	さらに質の高い支援に繋げるため、全職員が身体拘束に関する正しい知識を習得できるよう、研修の機会をより多く確保すること、行動指針となり得るマニュアルの整備が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会はつくれていない。早急に勉強会を行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会には参加しているが、今のところ活用する機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には家族、保証人、ご本人にも来所して頂き退所時のことまで説明し納得して頂いている。改定の際にも再度、説明を行っている。入居者の状況によって再確認もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時にはケアに対する要望を聞きケアプランに反映させている。職員は担当制を設け御家族との関係を作るよう務めている。	利用者や家族等はいつでも誰にでも意見や要望等を表せることを伝え、手順に従って対応する体制を整えている。家族との面談をより多く設ける工夫として、納涼祭等のイベントの折に家族会を組み合わせるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ではないが代表者と職員で話し合いをする機会を作った。管理者とは話し合いを定期的に行なっている。	ユニット毎のミーティング及び事業所全体での職員会議で職員の意見や提案等をまとめ、運営に反映させるよう努めている。管理者は代表者と定期的に意見交換を行い、職員と代表者が話し合う機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績の評価があり、やりがい、スキルアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修の機会を確保してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者から積極的に同業者との交流の場を作ることはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、要望などを聞いているが本人の安心を確保するまでの関係づくりとなると難しい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、要望や不安なことは聞いているが関係づくりまでには至らない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のほとんどはケアマネからの紹介で入所を決めている。グループホームでの生活ができるかは見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の今までの生活を把握し、できること、好きなことを職員と一緒にこなしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を担当職員から家族に伝え本人の状況によって御家族の協力を得ながら関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや親戚宅等に御家族が連れて行ってくれている。また親類の面会も多い。	馴染みの場所に出かけ馴染みの人に会うことも、家族の協力で叶えられている。事業所は自由に入出りできることから、たまには近隣の友人が立ち寄ることもあり、家族は頻回に来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係を考え食事の席に配慮している。また、行事の際のグループ分けにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからの相談はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情などから思いを汲み取っている。自分の意見を主張できる入居者には、その意向に沿っている。	入居に際し本人や家族等と面談して要望等を聞き、記録に残している。例えば和裁の経験がある利用者はズボンのほつれを直したり、ぞうきん縫いをするなど、個々の希望に添うよう本人本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から生活歴を細かく聞き取り記入してもらっている。入居後、本人からの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで生活している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて主治医または関係者との連携をとり本人、家族の意向が反映されるケアプランを作成している。	ユニットの職員で初期プランの見直しを行っている。1ヶ月後から担当者が中心となり、全職員や家族・ケアマネジャー・看護師が話し合いを持ち、チームとしてプランの作成に携わり、本人や家族の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入しているが記入漏れもあり情報の共有ができていないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、その都度柔軟に対応している。受診や外出時には御家族の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員に運営推進会議に出席していただき、地域の情報を得ている。また、行事等には、ボランティアに参加していただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族にかかりつけ医の了承を得ている。また本人の状況に応じて、かかりつけ医と御家族の面談を行い、本人や御家族が納得できる様にしている。	本人や家族の希望により、従来のかかりつけ医か、新たに事業所の協力医を受診するかは自由に選択できる。毎週訪問看護師が健康状態を確認しており、利用者の状況に応じて医療と連携できる態勢が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師を依頼している。日々の様子がわかるように訪問看護記録を記入し、連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談室・医療連携室と相談をこまめにとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に医療対応確認表を記入してもらう。状況に応じて、かかりつけ医、管理者、家族との面談を行い、家族や本人の意向を再確認している。	入居の段階に、重度化や終末期の方針を示した書面により説明し了承を得ている。利用者の状況の変化に応じ、都度かかりつけ医をはじめ各担当者や家族を交えて十分に話し合い取り組んでいる。看取りの経験のある職員が多く、適切な対応への態勢がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車対応のマニュアルは作成している。実技をふまえた勉強会を行なったが、全ての職員に実践力が身につけているかは不明。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震に対応した避難訓練は行なっているが、マニュアルは作成できていない。	毎年2回防災訓練を実施しており、地域の防災訓練にも事業所から参加している。事業所の訓練に地域住民の参加は多くはない。防災対策関連のマニュアルが4年前から見直されておらず再検討の時期である。	定期的な訓練は実施しているものの、災害対策に対する職員の意識が薄れている。職員全員で高い共通意識を保つためにも、早急に分かりやすいマニュアルの整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれを理解した上での声掛けが心がけているが、さらに細心の配慮をしておく必要がある。	利用者一人ひとりを尊重して、プライバシーを確保することを重視した支援を実践している。特に声掛けに関しては細やかな配慮を欠かさずに接している。個人情報に関わる書類は事務所で管理し、適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしづらい入居者が増えていることで、支援に至らない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースに沿うよう心がけてはいるが、時には職員の都合を優先せざるを得ない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えられる入居者に関しては、自身で楽しんでいただいている。出来ない入居者に関しては、職員がいつも同じようにならない工夫をしながら、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや、レベルに合わせた食事形態に配慮している。また食事中も会話を楽しめるような雰囲気心がけている。	調理専門員が市場で直接仕入れる新鮮な食材、好みに合わせた水分補強用の(お茶、ヨーグルト、牛乳、スポーツドリンク等)飲み物や畑でサツマイモを栽培したり、柏餅を手作りすることなど、全員で食事を楽しんでい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は記録に残している。栄養バランスに配慮したメニューを提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行なっている。自分でできない入居者は、職員が介助している。義歯の入居者は一日おきのポリドントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前やおやつ前のトイレ誘導やパット交換を行なっている。入居者それぞれのレベルに合わせた支援は行なっているが、自立に向けた支援にはつなげていない。	定めた時間での誘導を行う他、食事や入浴の前に本人の意思を確認をしている。自立の利用者へは見守りのみを行う。丁寧なトイレ誘導は実施しているが、自立支援はまだ十分とは言えない状況である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分摂取量には気を配ってはいるが、下剤に頼ることが多くなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調やスケジュールに合わせて負担のない入浴ができるようにしている。拒否がある入居者に対しては、時間を置いたり、声掛けの工夫をしている。	1日おきの入浴を心掛けている。1対1でゆっくり入浴できるような介助を行い、季節の柚子湯や入浴剤で気分転換を図っている。入浴が不可、あるいは皮膚病がある場合は足浴で対応するなど、柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった就寝時間は設けてはいない。日中も、それぞれの状況に合わせて休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表のファイルを作成し、薬に関する理解に努めているが、全て理解することは難しい。その都度、ファイルを確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回、色々なレクリエーションを企画し、参加することで楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により外出ができている入居者もいるが、なかなか外出できる機会が少ない。レク等で外出の企画を立案し、戸外へ出掛けられる機会を作っていきたい。	事業所は比較的交通量の多い道路沿いであり、利用者が徒歩で外出する機会はあまり多くはない。買い物やイベント等で外出の機会を作る工夫をしている。筋力維持も兼ね施設内の廊下を散歩することや、広いバルコニーに出ることで気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の自己管理をしている入居者はいない。必要に応じてホームで立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があれば、事務所の電話を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	厨房からの料理の香りや調理の音を感じることができる。季節の花を飾り、家庭的な雰囲気をつくっている。掃除に力を入れており、施設内の清潔に配慮している。	南向きで陽当たりのよいフローアと広いバルコニーが特徴的である。職員が毎日丁寧に清掃を行い、朝は窓を全開にして空気を入れ替える。全体的に明るく開放的で清潔感がある。バルコニーのプランターで花を育て楽しむ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには、食卓以外にソファを置き、和室も開放し、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは介護用ベットをすすめている。家具等は馴染みの物を用意してもらうように話をしているが、持ち込みはあまりない。小物に関しては、使い慣れたものや好みに合わせたものを使用している。	畳敷きやマットを敷いた部屋など、希望により自由に工夫されている。使い慣れた家具や道具類、大切な写真などを持ち込むことができ、好みの雰囲気ですぐに居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりを設置している。居室やトイレには表札を付けてわかりやすくしている。夜間の照明も足元が見えるくらいの明るさを保ち、安全に考慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101693		
法人名	(有)ありずう		
事業所名	グループホームなの花	ユニット名	すみれ(2階)
所在地	静岡県浜松市早出町1200-25		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2277101693-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に清潔を保ち、気持ちよく過ごせる環境づくりに務めている。家庭的な雰囲気大切にしている。食事は手作りの物を提供し、施設内の畑では毎年さつま芋を育て、収穫したさつま芋を使って食事やおやつに利用している。また、いちじくの木もあり季節を楽しみながら収穫もできる。夏祭り・敬老会には家族を招き毎年趣向変えて力を入れている。その他のイベント事も毎月1回はレクリエーション担当者が工夫し行なっている。誕生日にはケーキ、プレゼントを用意し職員、入居者みんなでお祝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた施設方針を掲げて職員間で共有実践している。理念については勉強会などでも職員間で再確認している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加は継続。地域の防災訓練などには参加しているが日常的な交流はあまりない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時、受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	担当職員以外も参加し色々なテーマを掲げて行うことで、より現場の意見を取り入れた会議にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回介護相談員が来所されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。身体拘束のないケアに務めているが、危険回避の為、家族に了解を得てベット柵を使用したり、車椅子を置いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について勉強会を行う予定はあったができていない。各職員で意識を持ち、確認し合いながら業務にはあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者もおらず、学ぶ機会はつくれていない。各職員がもともと持っている知識にとどまってしまう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には家族、保証人、ご本人にも来所して頂き退所時のことまで説明し納得して頂いている。改定の際にも再度、説明を行っている。入居者の状況によって再確認もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時には本人、御家族からの要望も確認している。施設の運営状況、大幅な職員の移動などがあり御家族を招いての会議を行った。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者を交えての話し合いを行った。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの働きかけもあり手当については少しずつ改善された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費、交通費などの負担はしてくれるが現在の状況では研修などに参加する時間を作るのが難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流の機会を持っているが代表者からの発信はあまりない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族と本人を交えての面談は実施しているがケアプラン作成までにはいたっておらず関係づくりは難しい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に記入する情報シートにケアの希望を聞いているが、関係作りまでには至っていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の導入については、ケアマネや地域包括からの薦めであり、まず施設見学してもらい、その後面談を実施し、グループホームでの生活が可能かどうかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居後の本人の様子を観察しながら、洗濯たたみを行なっている。また、家族のような雰囲気作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は、お墓参りやお孫さんの発表会に連れて行ってくれている。また、受診の付き添いもお願いすることがあり、施設での催しにも参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望があれば、親戚などの集まりにも外出している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は把握し、食卓の座席は必要に応じて変えながら、関係づくりに務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのような事は今までない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握はしているが、実現についてはできるだけ本人の状況を考慮しながら対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に情報シートを記入していただき、全ての職員が常に目を通せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に記録に残し、それを元に職員間での意見交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報や意見は出ているが、実際の介護計画の立案までには、大幅に遅れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を元に職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリの利用など入居者の体調の変化に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションの際にボランティアさんに来所してもらった。地域の老人会のお花見に参加させて頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は出来ており、かかりつけ医以外での大きい病院での検査が必要な場合などには病院の手配もして頂きスムーズに受診することができている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を依頼している。訪問看護時用の記録を作成し、連携をとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には情報を流しており、入院中も医療連携室と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療対応確認表家族に記入してもらい、状況に合わせて医師を交えた面談を行う等、その都度話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の勉強会は行なっているが、すべての職員が実践力を身につけていない。応急手当に関しては勉強会を実施していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼の訓練は行えているが、夜の訓練は実施されていない。また、地域の防災訓練に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気を大切にしている為、敬語や言いまわしが足りないことがあるが、個々を尊重した言葉掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類については職員が一方的に選んでおり、選択肢の工夫などができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩時間等を考慮しながら、一人一人のペースに合わせるようにしているが、職員の都合で業務を行ってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容については支援できているが、いつも同じ様な服装になってしまい、その人らしいおしゃれはできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みについては、代替表を作成してできるだけ対応できるようにしているが、準備片付けは強制しておらず現在おこなう入居がない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に摂取量、飲水量は記入しており、好みに合わせ飲み物や食事を提供する工夫をすることで摂取できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の力に合わせた口腔ケアが出来ている。また、義歯を使用している入居者については定期的にポリドントを使用し洗浄もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄のタイミングを把握し、それに合わせた支援をしているが自立に向けた支援にはつながっていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中に排便効果のあるメニューを取り入れている。(いも類や寒天ゼリー)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で業務優先になってしまうことが多いが、一番風呂に入りたい入居者にはお湯を替えるなど配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に休息が取れるようにしている。意思表示できない入居者には個々の状態に配慮しながら休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての内服薬について理解は出来ていない。最新版の薬表をファイルにとじいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎晩、晩酌をしていた入居者には今も少量だが継続して楽しみにしている。昔の歌をDVDに用意いつでも見れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りの希望があったときには御家族に協力をお願いしている。日常的に外出を希望される対象者はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自分でお金を管理している入居者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が来ることはあるが返事はかけていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は開放的な空間にしているが眩しすぎないように照明は暖色系にし日中も日差しに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は自室に戻ることが多いが和室を開放しソファも設置し各々自由にくつろげる空間は用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを使用している入居者もいるが新しく購入する機会が多い。小物は本人の好みの物を家族が用意してくれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室には手すりを設置している。夜間の廊下の照明も足元が見える光量を確保し安全に過ごせるようにしている。		